

## 特別史跡水城跡第 65 次調査現地説明会

～災害復旧にともなう発掘調査～

令和元年6月1日(土)  
太宰府市教育委員会文化財課

### はじめに

このたび市教育委員会では、昨年7月の豪雨災害によりき損した特別史跡水城跡東土塁の西端において、災害復旧工事を実施するに先立ち、き損の原因や遺構の状況を確認し、史跡に影響のない範囲で復旧工事を実施・設計するための発掘調査を実施しました。

今回の調査の中では、部分的ではありますが水城土塁の積み土を観察できた箇所がありました。日頃は表土に守られて見ることのできない水城築造当時の土塁の姿の一部を目にできる貴重な機会となりますので、ぜひご覧ください。



調査地位置図

### 「平成30年7月豪雨災害」

平成30(2018)年6月28日から7月6日にかけて西日本を中心に北海道までの広い地域を襲った記録的な大雨は、河川の氾濫や土砂災害等により多数の死者も出るなど各地で甚大な被害を及ぼしました。太宰府市では、台風7号の影響を受けて7月5・6日の2日間で合計450mmを超える降水量を記録し、市内各所で土砂崩れや倒木、家屋半壊等の被害が発生しました。

### 災害発生直後の状況



崩落箇所③(南東から) H30年7月6日撮影



崩落箇所①～③(南から)

### 水城跡とは？



水城跡全景(国分小上空から西方向を望む)

水城は、今から1350年以上前に人の手で築かれた濠と土塁です。

『日本書紀』天智天皇3(664)年の条に、「…筑紫に大堤を築き水を貯わえしむ。名付けて水城といふ」

とあるのが、この水城跡のことです。

水城は福岡平野が最も狭くなる場所をふさぐように築かれ、博多湾側には幅60mの濠が設けられるなど、大宰府側を守る城壁のような役割を果たしていました。また濠の内側に築かれた土塁の規模は、全長1.2km、幅80m、高さ約10mです。

くわしくは、すぐ近くの「水城館」の解説をご覧ください

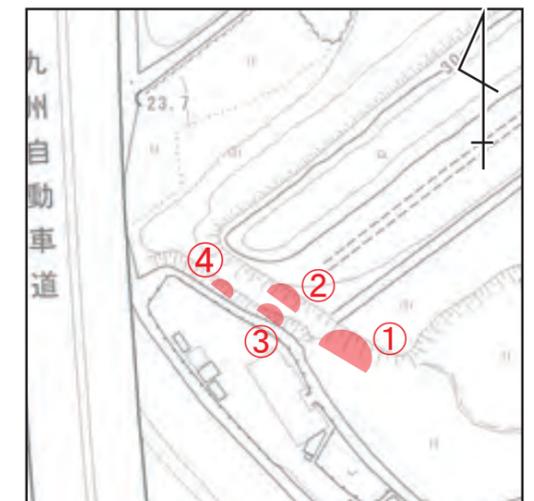


### 被災の状況

今回、災害によって土砂の崩落が起こった箇所は4カ所あります。

- ①幅5～9m×高さ4.5m
- ②幅8.5m×高さ2.7m。
- ③幅4.5m×高さ2m。
- ④幅6m×高さ2.5m。

いずれも大雨によって水を多く含んだことから起きた法面部の土砂崩落です。特に②では水城の下成土塁上を東から西に流れて集まった水も大きく影響したようです。



土砂崩落箇所概略位置図

崩落箇所①②では、崩落した後世の盛り土や表土の下から、水城の下成土塁の積み土かせいどるいを部分的に確認できました。

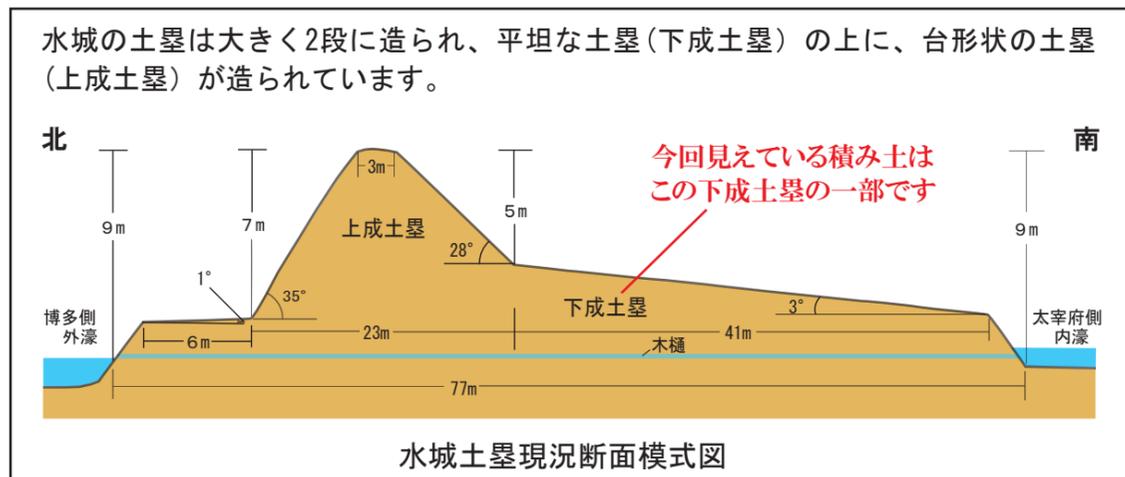
### 崩落箇所①



崩落箇所①の崩落面に現われた水城下成土塁の積み土の一部

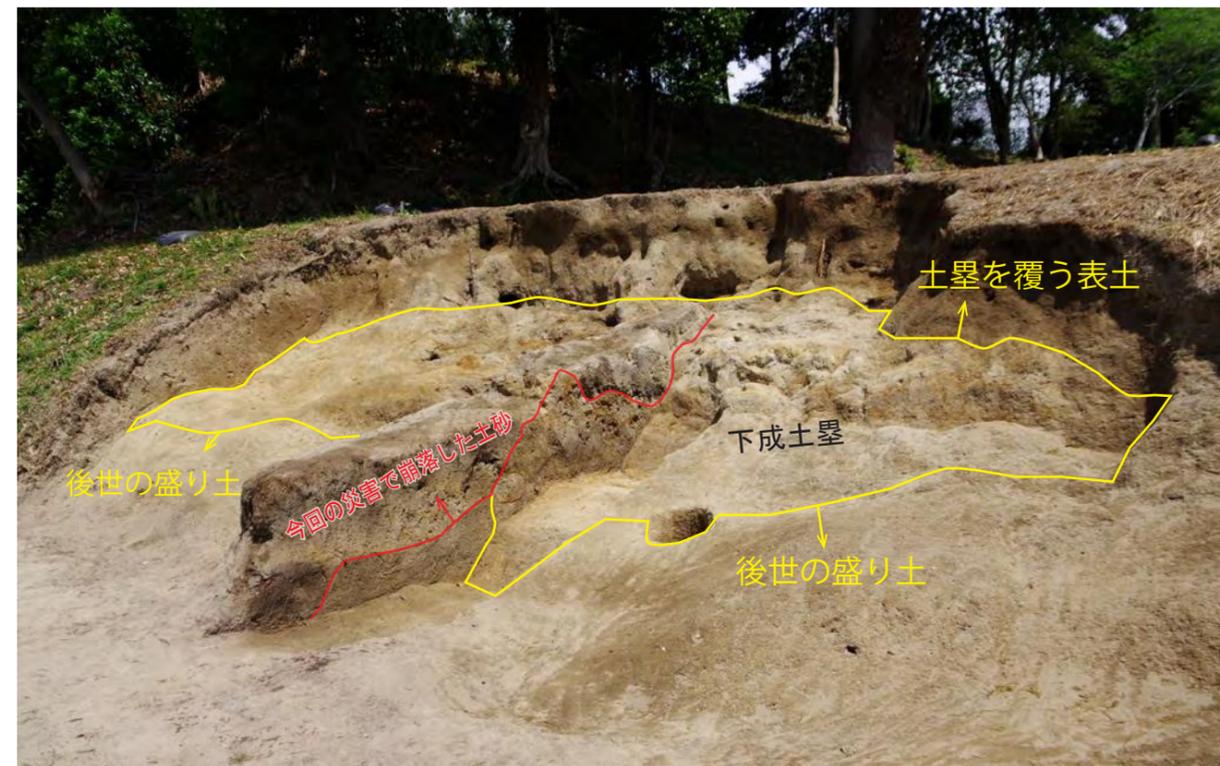


▲積み土の土層ラインを薄い白色で表し、後世の盛り土・耕作土部分には黄色を重ねています。



### 崩落箇所②

表土・後世の盛り土が崩落したことで水城下成土塁本体が露出し、その後流れてきた多量の水によって土塁の一部が浸食を受けました。



なお、崩落箇所③・④も崩落したのは水城の土塁を覆っている後世の盛り土や表土のみで、この2カ所では水城土塁本体を観察することはできませんでした。

### 代わりに

確認調査の結果、災害により崩落したのは水城が築かれた時代よりもずっと後の後世の盛り土や表土部分がほとんどで、水城の土塁本体への被害は少なかったことが分かりました。

調査を通じて、1350年前もの昔に築かれた水城土塁が現在も残るだけの頑丈さと当時の土木技術力の高さを改めて体感することができました。

### 水城跡災害復旧工事のお知らせ

今回の発掘調査の成果を元に、令和元年6月から9月(予定)にかけて災害によって壊れた水城跡土塁の復旧工事を行います。

工事期間中は安全確保のため、今回の調査現場含め工事現場内には立ち入ることが出来ません。

皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

水城跡は史跡指定されてから、令和3(2021)年3月で100年となります!!

